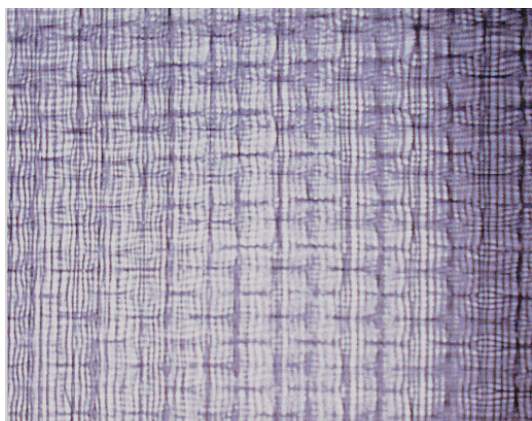
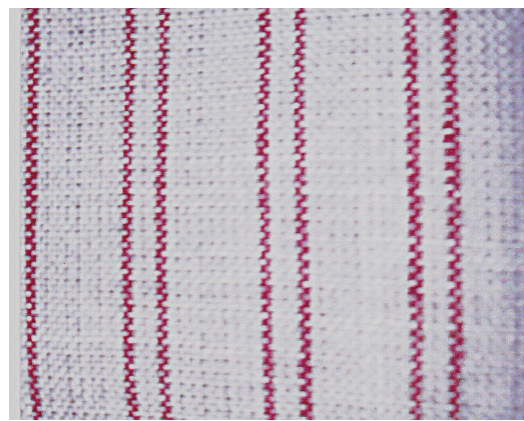


# [変わり織り] の進化を求め続ける

だいわしよくふ  
大和織布有限公司



[変わり織り] したハニカム組織



[平織り] したリネンのふきん

織物表面に凹凸と厚みのある [変わり織り] を 1985 年に手がけて以来、  
25 年間織り続けてきた奈良県下のまれな会社。  
量産指向ではなく「納得いく技術で、納得いく製品」しか織らない姿勢は、  
業界でも高く評価され、注目されている。

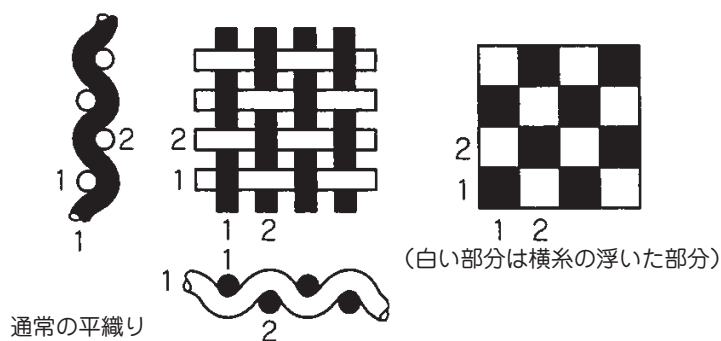
## 伝統のハニカム織りを守り抜く

当社注目の織り技術は、変わり織りの一種であるハニカム織り。織物組織が通常の 3 原織り（平織、斜文織、朱子織）に属さない変わり織り組織で、はち巣織りとも言い、特別な織機と熟練した織り技術が必要。この組織は織物表面に凹凸が表われ、厚みがあるので夏向きの織物や寝具織物によく使われている。ドビー開口装置により 12 枚のヘルトフレームを上下させる複雑な織機。

当社は麻織物（リネン・ラミー）300M 長さの小ロットから対応している。

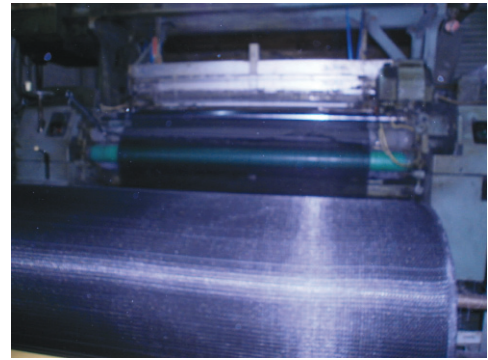
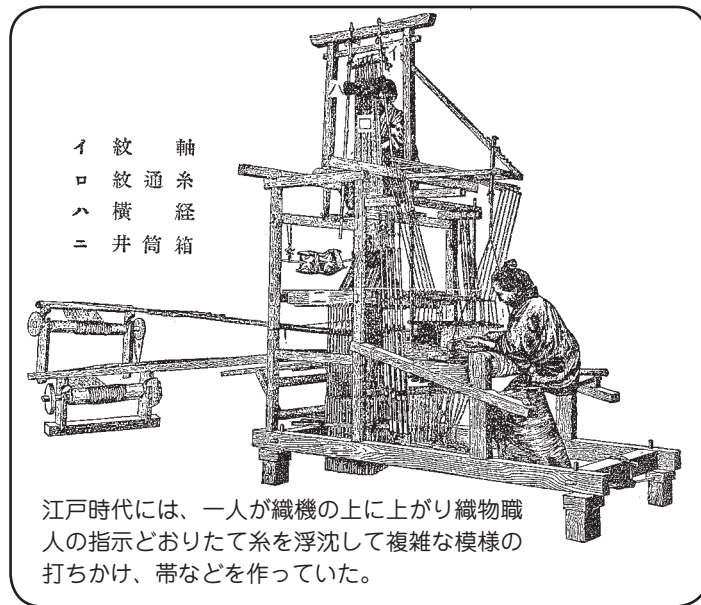


## 平織りとハニカム織り

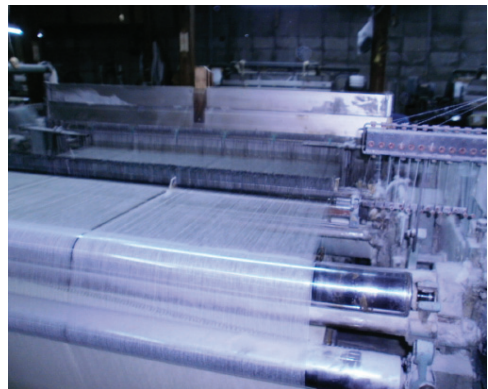


## ハニカム織り

創業は1948年。2代目社長は普通の織機で変わり織りに挑戦した。ハニカム織りは、1985年同業の得意先がやりかけたころ当社も、最初にレピア織機を1台入れて織り始めた。現在は9台稼働しており、小幅から2M巾まで織っている。ハニカム織りに用いる原糸モノフィラメントと従来手掛けてきた蚊帳糸との糸質の差異が大きく、開発に10ヶ月要している。



ハニカム織り



天然繊維リネン（麻）100%の織り

当社は1948年（S23年）創業の蚊帳織り以来、主に変わり織りを中心に仕事を拡大してきた。今後は難しいリネン・ラミー織物でも可能性を追求して、自社ブランド品を世に出して評価を得てみたい。ただ残念ながら織り技術には自信があるが、市場開発力や販売力に乏しい。環境市場、介護市場に自社技術を生かした製品を見つけ、社会に微力ながら貢献する会社に育てたい。一方、経営的には無理をしない堅実な経営を守り続けたいと野崎専務は結んだ。

## 大和織布有限公司



専務取締役 野崎 育洋

〒631-0803  
奈良県奈良市山陵町山上77  
TEL 0742-33-7844  
FAX 0742-81-7845